

日本学術会議 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会（第30回）
議事要旨

日時 2014年9月4日（金）16:45-18:15

場所 日本学術会議 5-A(1)会議室（5階）

出席者 荒川委員長、松沢副委員長、西尾幹事（スカイプ参加）、伊藤委員、岩本委員、大隅委員（スカイプ参加）、田中委員、樋口委員

陪席 日本学術会議事務局（盛田参事官、辻上席学術調査員、太田参事官付）

配布資料

- (1) 資料 1-1： 第 28 回学術の大型研究計画検討分科会議事要旨（案）
- (2) 資料 1-2： 第 29 回学術の大型研究計画検討分科会議事要旨（案）
- (3) 資料 2： 学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップの策定 — ロードマップ 2014 — [平成 26 年 8 月 6 日：文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境部会 学術研究の大型プロジェクトの推進に関する作業部会]
- (4) 資料 3： 学術研究の推進方策に関する総合的な審議について（中間報告）[平成 26 年 5 月 26 日：文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会]
- (5) 資料 4： 共同利用・共同研究体制の強化に向けて（中間まとめ） — 共同利用・共同研究拠点の在り方を中心に — [平成 26 年 7 月 25 日：文部科学省科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会]
- (6) 資料 5： 戦略的な基礎研究の在り方に関する検討会（報告書）[平成 26 年 6 月 27 日：文部科学省 研究振興局 戦略的な基礎研究の在り方に関する検討会]

1) 前回議事要旨（案）の確認

資料 1-1、資料 1-2 をもとに本分科会の第 28 回、第 29 回のそれぞれの議事要旨（案）の確認を行い、了承された。

2) 文部科学省における関連の対応について

西尾幹事から、マスタープラン 2014 策定後の文部科学省における関連の対応についての報告がなされた。

まず資料 2 をもとに、学術研究の大型プロジェクト作業部会において、マスタープラン 2014 を踏まえつつ、推薦の優先順位を明らかにしたロードマップ 2014 が策定されたことの説明がなされた（資料 2 参照）。

つぎに資料 3、資料 4、資料 5 をもとに、学術研究の大型プロジェクト作業部会以外の三つの委員会等において、マスタープランに関する記述をした審議報告書等が作成されたことの説明がなされた。このように日本学術会議のマスタープランが広く参照されることにより、マスタープランが我が国の科学技術・学術の推進に重要な位置を占めるに至っていることの紹介がなされた。

その後、マスタープラン 2014 における重点大型研究計画の 27 件をもとに、ロードマップ 2014 に採択された 10 件の大型研究計画との比較・分析等の議論がなされた。

3) マスタープラン 2014 の英文化について

荒川委員長から、マスタープラン 2014 英文化について、以下の提案が行われ、了承された。

- ・ マスタープラン 2014 英文の構成は、マスタープラン 2010 英文および 2011 英文に準拠

し、具体的には要旨と学術大型研究計画および重点大型研究計画各一覧表から構成されるものとする。

- ・ 作成プロセスは、辻明子上席学術調査員の支援を得て荒川委員長がマスタープラン 2014 英文（初案）を作成し、これを分科会委員へ意見照会を行い、その結果を踏まえて最終稿を整えることとする。
- ・ 公表は、今期中（2014 年 9 月中）に行うこととし、公表にあたっては、事前に幹事会メンバーに対して情報共有を行うこととする。

また各委員は、マスタープラン 2014 英文にかかる用語や、構成等に意見がある場合は、事務局にメールでその旨を伝えることとした。

4) 次期への申送りについて

マスタープラン 2014 の策定経過およびその内容を踏まえ、次期（第 23 期）のマスタープランに向けての申送りについて審議し、以下のような事項が出された。

- ・ マスタープランの策定が確実に行われることの重要性
- ・ 日本学術会議と他の府省の連携のあり方に関するさらなる検討
- ・ 区分Ⅰ、区分Ⅱの取り扱いに関するさらなる検討
- ・ 大型研究計画の規模に関するさらなる検討（特に第一部関係で、大型研究計画までは行かないが中型研究計画のような規模があると望ましい。）
- ・ 策定プロセスにおいて、第二部、第三部では分野別委員会がベースになっているのに対して、第一部では部会ベースになっていることに関する検討
- ・ 複数分野に関わる大型研究計画の策定を促進するようなプロセスの工夫

今後、各委員から上記事項への加筆箇所、追加の申送り事項を事務局に送ることにより、最終的に荒川委員長が「次期への申送り」を作成することとした。

5) その他

荒川委員長から、マスタープラン 2014 の策定に関する本分科会委員の尽力に対して謝意が述べられた。